

ツバメの巣づくりからみる建築空間におけるエコロジカルニッチに関する研究

安積 佐起

[指導教員：武庫川女子大学准教授 三宅正弘]

1. はじめに

日本の建築家屋について学ぶときに、海老束・犬走り・猫間障子など生物の名前が使われているように、都市空間および人間が生物と密接に関わってきたことに興味を持ったことが本研究の背景である。そこで本研究ではツバメを事例として建築空間との関わりを絵画作品および実際の生活空間を調査対象とし考察していく。

2. 絵画作品にみるツバメと人との関わり

まず武庫川女子大学研究図書閲覧室に収められてある絵巻物や浮世絵の作品から、ツバメの巣が描かれてあるものを探し出し、考察した。

表1 歴史的絵画作品に描かれたツバメの巣


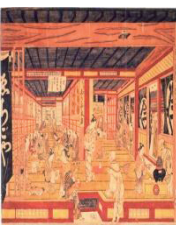
年代	900 年代	1745 年	1802 年
作品名	竹取物語	駿河町越後屋呉服店大浮世絵	十軒店雛市
絵			
営巣場所	家屋	商店	商店
営巣箇所	軒下	軒下	軒下
補助の有無	—	あり	あり
営巣箇所の素材	—	木材	木材

表1より、ツバメの巣は、いずれの作品も生活空間の近くに描かれていることから、人間とツバメとの関係性が平安時代のころより意識されていたことが明らかとなった。また、奥村正信・葛飾北斎によって描かれた絵画には、軒の下に巣作りの補助となる台が置いてあることから1745年頃から人々が生活空間においてツバメを迎えるような意識が存在したと考えられる。

3. 身近な生活空間におけるツバメの巣の立地

大学周辺の西宮市鳴尾地区と、大阪市淀川区十三に立地す

るつばめ通りと呼ばれているエリアを事例にし、ツバメと建築空間の関わりについて考察することを目的とする。

二つのそれぞれの場所で目視調査により発見できたツバメの巣について、立地条件や外壁の素材などをフィールド調査する。鳴尾地区は2012年7月27日、十三地区は2012年11月16日に調査する。

3-1 鳴尾地区におけるツバメの巣の立地

鳴尾地区では、ツバメの巣が6カ所、計8個の巣が見つかった。みやこ商店街周辺を歩いていると、巣を発見することができた。

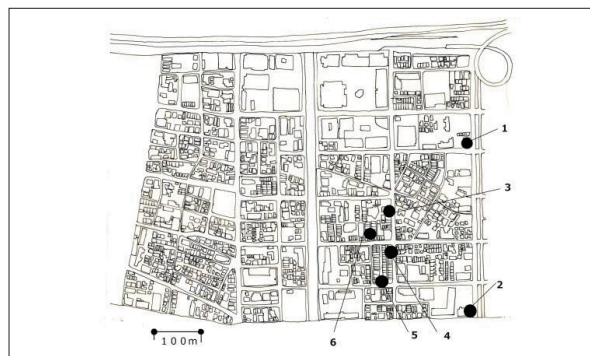


図1 鳴尾地区におけるツバメの巣の立地

3-2 十三地区におけるツバメの巣の立地

十三地区では、ツバメの巣が4カ所、計6個の巣が見つかった。

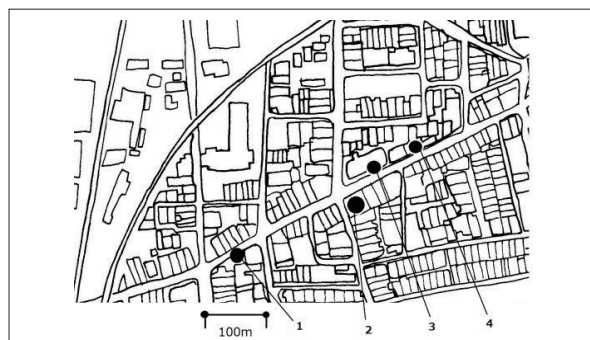


図2 十三地区におけるツバメの巣の立地

鳴尾地区では、みやこ商店街周辺にて巣を発見することができた。6カ所のうち4カ所は、カラオケ店、たばこ店、精肉店、商店街のシャッターの上などの商店で発見された。

表2 鳴尾地区で発見された巣の詳細


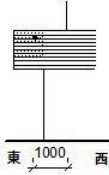




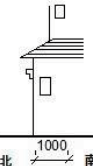


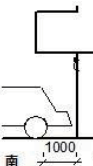
	笠屋町 3 番地	笠屋町 18 番地	笠屋町 13 番地	笠屋町 16 番地	笠屋町 16 番地	笠屋町 13 番地
写真						
立面図						
営巣場所	家屋	商店	集合住宅	商店	商店	商店
営巣箇所	軒下	軒下	軒下	軒下	アーケードの下	アーケードの下
補助の有無	なし	あり	なし	なし	あり	なし
営巣箇所の素材	木材	モルタル	モルタル	モルタル	窯業サイディング	窯業サイディング

表3 十三地区で発見されたツバメの巣の詳細

	東三丁目 26 番地	東三丁目 20 番地	東四丁目 5 番地	東四丁目 5 番地
写真				
立面図				
営巣場所	商店	商店	集合住宅	商店
営巣箇所	軒下	軒下	軒下	軒下
補助の有無	あり	なし	あり	なし
営巣箇所の素材	モルタル	木材	モルタル	モルタル

いずれの場所も人通りの多い場所に立地していた。1カ所目の家屋では、つばめの巣の形跡だけが見られた。その他は巣が残っていた。いずれの巣にも、人為的な補助台は設けられていなかった。しかし、軒天に吊らされている電灯の上や蛍光灯のカバーの上に作られてある巣もあり、巣が落ちにくい工夫をしているように考えられる。1カ所目はテントの裏に作られていたが、その他は人間から見られやすいところに巣をつくっていた。6カ所目は、精肉店で3個の巣が並んで作られてあった。3個のうち、1つは軒天に作られてあり、2つは軒下の外壁に接着して作られてあった。

十三地区では、十三東本通商店街に立地がみられた。4カ所のうち3カ所は、医院、喫茶店、インテリア店の商店で発見された。すべての巣が外壁に作られてあり、一カ所目は人為的につばめの巣の補助台がおかれていたが巣は残っていなかった。それ以外の箇所では巣が残っていた。4カ所目では換気口の上に作られてあり巣作りのしやすい場所を選んでいるように考えられる。

巣作りは外敵から身を守るために外から見えにくい場所に巣をつくらせていると考えたが、本研究を通して外から見やすい場所に作られる傾向が明らかとなった。また軒下の外壁に接着して巣作りを行っている場合が多く、垂直の面は泥が付きにくく巣を作りにくいせい、補助台や何か台となるものの上に巣をつくる習性も明らかとなった。また、いずれの地区においても商店に集中して巣が作られてある。そのなかでもモルタル材で作られた外壁に接着して巣が作られる傾向も明らかとなった。

4. 本研究のまとめと今後の展望

本研究によりツバメの巣作りの実態が明らかになった。特に店舗での立地が多くみられた。このことから人間との都市的な関係によってツバメの巣が作られていることが考えられる。こうした人間と生物との関係を今後さらに研究することで、生態的な建築および都市空間のデザインに反映していきたい。また建築に用いる壁材などが変化し、ツバメの棲家となっている軒下の変化も考えられる。今後、こうした人間とツバメとの関係を維持していくと考えた場合には、江戸時代から設置されていたような巣の台を置くことや、本調査地でも見られたが商店街などでは、“ツバメが子育てをしています。”などを書いた張り紙を張るなど温かく見守っていくことも考えられる。